



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



第8回昭和大学学祖祭が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

第8回学校法人昭和大学学祖祭が、5月27日(日)午後1時から、上條講堂で本学関係者、職員および学生



約600名の出席のもと盛大に開催されました。学祖祭は本学学祖である上條秀介先生のご遺徳を称え偲ぶとともに、本学関係者が一同に会して親睦の絆をより深めるために平成23年度から開催され、今年度で8回目になります。

当日は、学祖祭に先立ち、法人役員と上條家関係者が都立多摩霊園の上條家墓をお参りし、小口勝司理事長が学校法人の事業報告ならびに事業計画を学祖に墓前報告しました。

学祖祭は本学管弦楽団の前奏に引き続き、久光総務担当理事の司会で始まりました。小出良平学長の挨拶に引き続き、小出学長から平成30年度上條奨学賞が授与されました。歯学部からは、総合内科学部門の安藤浩一講師(研究業績)と歯学教育学部門の片岡竜太教授(教育功績)が表彰されました。引き続き平成30年度昭和大学学術研究奨励研究者表彰が行われ、歯学部から学術研究諸活動で石崎晶子先生(口腔衛生学部門)、菅井琳太郎先生(美容歯科学部門)、黒田 沙先生(歯科放射線医学部門)および海外留学諸活動で吉田裕哉先生(歯科補綴学講座)が表彰されました。昨年度から新しく設けられた昭和大学学業成績優秀賞を、歯学部からは以下の5名が受賞しました。竹田真帆(2年)、北株賢太郎(3年)、山田明佳(4年)、野田和孝(5年)、大竹 開(6年)(敬称略)

小口理事長から平成29年度の事業報告と平成30年度事業計画の概要が紹介され、細山田明義名誉学長から「昭和医科大学から昭和大学への移行そして医系総合大学へ」と題する恒例の記念講



演がありました。

式典に引き続き7号館で懇親会が開催され、和やかな雰囲気の中、参加者は思い出話に話を弾ませました。

平成30年度父兄会総会が開催されました

教育委員長 美島健二

平成30年度父兄会総会が、6月9日(土)午後1時から本学上條講堂にて開催されました。総会では平成30年度の学校法人の事業報告と事業計画の概要が説明され、決算、予算の承認等が行われました。また、同日の総会に先立ちD6御父母説明会が午前10時00分より4号館5階500号室にて開催され、最初に宮崎学部長より歯学部教育の概要についてお話があり、次いで上條学生部長より学生生活における注意点などについて説明がなされました。その後、卒業判定について美島教育委員長、昨年度の歯科医師国家試験結果について船津D6チュータ委員長より説明がありました。加えて、卒後研修制度について荒木教授より、歯科病院の研修プログラムについて長谷川教授より詳細な説明がなされました。また、本年度より歯学研究科長に就任された高見教授より大学院歯学研究科に関する説明がなされました。総会終了後は各学部の部会が開催され、多数のご父兄の方々に御出席頂くことが出来ました。歯学部会では、宮崎学部長から歯学部教育の現状について、高見研究科長からは就任の御挨拶と大学院歯学研究科の役割に関するお話がありました。次いで、上條学生部長からは学生生活についての報告がなされました。また、美島教育委員長からは進級判定についての説明がなされました。その後、7号館の50年記念館に会場を移して4学部合同の懇親会が開催され、こちらにも多数のご父兄の御参加があり、教員との和やかな交流が行われました。



平成30年度特別奨学生採用式が開催 されました

歯学部長 宮崎 隆

平成30年度昭和大学医学部・歯学部・薬学部特別奨学生採用式が、5月28日(月)午後6時半から旗の台校舎16号館3階教室で開催されました。特別奨学金制度は、4年次終了時の成績優秀者に対して、将来本学で研修、大学院進学、さらに職員として教育・研究・診療に従事する者を対象に支給する制度で、平成26年度からスタートしました。本年度の採用者は医学部18名、歯学部10名、薬学部5名でした。歯学部は募集枠が10名なので、本制度が始まって5年目で初めて100%の採用となりました。

式典では、小出学長から、特別奨学生制度の意義とこれまでの経緯について挨拶に続き、小口理事長から、大学の発展には人材が必要で、今年度の採用生が後継者になって大学を発展させて欲しいと激励の挨拶がありました。小出学長から採用生全員に採用証を授与し、薬学部の宗友咲子さんから謝辞がありました。歯学部の渡邊匡崇君のリードにより参加者全員で昭和大学宣言を行い、校歌斉唱で閉式しました。採用生の今後ますますのご活躍を祈念します。



D2, D3研究入門の優秀者が表彰 されました

口腔生化学講座 宇山 理紗

平成29年度の「研究入門」を履修した学生は、歯学部2年生(D2)12名(現3年生)、歯学部3年生(D3)5名(現4年生)でした。今回D2からは5名、D3から1名の学生が優秀者として5月16日の教授会で表彰されました。本選択科目は、学生が約2週間、基礎系の研究室で各自設定した目標に向かって研究を行うものです。履修者は実習後に報告書を提出し、その内容を基礎系の各講座・部門の教育職員が評価しました。その結果、D2は1位が安藤有希さん、2位が高橋夏大さん、3位が齋藤彩乃さん、4位が山田このみさん、5位が十河美里さんとなりました。また、D3は1位が大塩 葵さんとなりました。選ばれた学生達には、宮崎歯学部長より表彰状を授与されました。本実習で経験した研究への興味、また習得した研究手法および研究遂行能力を是非将来にいかして頂きたいと思

います。



昭和大学白菊の集いが開催されました

口腔解剖学講座 中村 雅典

平成30年度昭和大学白菊の集いが、6月2日に50周年記念館で開催されました。医学部・歯学部の白菊会会員200余名が出席されました。本年度は医学部担当で、医学部解剖学講座大塚教授の開会の辞に続き、これまで解剖学実習にご献体いただいた物故会委員への黙祷、小出学長、小川医学部長ならび上條学生部長による挨拶の後、医学部整形外科学講座教授の豊根知明先生から「気をつけたい背骨の病気ーくびと腰の心配なサインを知っておこうー」と題して講演をしていただきました。会員は熱心に先生のご講演を聞き、講演後には多くの質問がありました。豊根先生には質問に熱心にわかりやすくご回答いただき、非常に実り多い講演となりました。最後に口腔解剖学講座の中村から閉会の辞があり、来年も元気にこの会で再開することを約束し、盛会のうちに終了しました。

上條奨学賞(研究業績)を受賞して

総合内科学部門 安藤 浩一

この度は、伝統ある上條奨学賞を賜り、大変光栄に存じます。このような栄誉ある受賞をできたのも、論文のご指導をいただきました医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門の相良博典教授をはじめ、歯学部全身管理歯科学講座総合内科学部門の井上紳教授、および関連する講座の先生方や医局スタッフの方々のご理解、ご協力によるものでございます。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。また、論文の共著者にもなった私の家族(妻)(子育て中)の日々のサポートなくしては、今回の受賞はなかったものと思います。重ねて感謝する次第です。

私は以前より、統計学には深い興味を持っておりました。医学研究では、統計学を応用し、客観的かつ正確に、現在までに獲得されたエビデンスを整理・統合することで、新たな知見が得られることが期待されています。今回の私の受賞は、この分野の取り組みについてご理解をいただいたものと考えております。

これからも初心を忘れず、研究活動を通じて、昭和大学および呼吸器・アレルギー病学のさらなる発展に貢献できるよう、より一層尽力していく所存です。そして、少しでも多くの後進の先生たちに、研究手法や解析技術を伝えていけるよう努めたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。



上條奨学賞(教育功績)を受賞して

歯学教育学部門 片岡 竜太

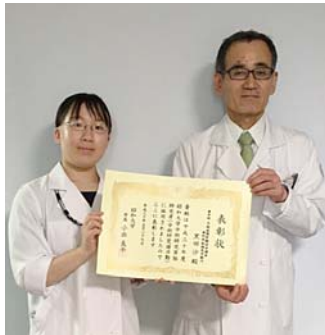
このたび「チーム医療、能動学修の基盤となるPBLチュートリアル教育の推進」というテーマで、平成30年度上條奨学賞(教育功績)を受賞しました。2004年に日本の歯学部で初めてPBLを導入し、歯学部PBL委員会のメンバーと共に歯学部PBLの充実を図りました。その後電子ポートフォリオやPBL支援システムを活用した歯学部方式のPBLをベースに学部連携PBLの導入を図り、その推進を医学、歯学、薬学、保健医療学部の先生方、学務の皆様と共に進めてきました。今回の受賞は推薦していただいた宮崎 隆 学部長をはじめ中村雅典委員長、歯学部PBL委員会の先生方、4学部の全職員のご支援によるものと心より感謝しております。このたび学部連携PBL委員会が発足し、初代の委員長を拝命しました。これからは微力ながら学生がアクティブに学ぶPBLを推進できるよう精進したいと思っております。ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



学術研究奨励賞を受賞して

歯科放射線医学部門 黒田 沙

このたびは学術研究奨励賞にご選出頂き、誠にありがとうございます。近年、歯科診療におけるデジタル化が進み、歯科用コーンビームCT(CBCT)は安心、安全な治療を行うために多用されています。歯科医療にデジタル技術を活用する上で、硬組織と軟組織、顔貌や口腔内の状態などの診査資料を複合的に評価していくことが臨床で有用と考えられます。軟組織部を含めた診査・診断をするためにはCBCTで得られる情報だけでは限界がありますが、ソフトウェア上で歯列模型や顔貌写真を合成して多くの情報を加えることで臨床で有用なデータが得られます。本研究では情報の重ね合わせをする上で最適な方法を検討し、様々な歯科治療における、より精度の高いシミュレーションの実用化を目指す一助となることを目標とします。



このような受賞の機会を頂きましたことは、荒木和之教授をはじめとする歯科放射線科の皆様、その他、支えて下さった全ての方の深いご厚情の賜物であると存じます。これからは微力ではありますが歯科放射線医学の発展に貢献してゆきたいと思っておりますので、今後とも尚一層のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

学術研究奨励賞を受賞して

歯科補綴学講座 吉田 裕哉

このたびは、昨年引き続き、海外留学諸活動奨励研究者にご選出くださり心より感謝申し上げます。また、ご選考頂きました諸先生方に改めて深謝いたします。留学の機会をくださいました、歯科補綴学講座の馬場教授、顎関節症治療学部門の菅沼教授を始めとする研究チームの先生方、その他、支えて下さった全ての方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。私は、昨年7月より南カリフォルニア大学歯学部の Glenn Clark 教授の主宰する講座である Orofacial Pain and Oral Medicine Center and Distance Learning Office に留学させていただきました。こちらの講座は主に口腔顔面痛と口腔内科に関する診療・教育・研究に加えて、Distance Learning というオンラインを用いた教育手法を用いており、それに関する研究も行われています。私は現在、口腔顔面痛領域における Symptom Checker の開発とその精度に関する研究をさせていただいております。Symptom Checker はオンライン上に現在の症状や性別・年齢等の項目を入力すると、その考えられる疾患に関する情報や緊急度が分かるもので、この分野における研究は、欧米では急速に進んでおり、需要が高いものになっております。今回の選出を励みに、帰国後もこちらで得ることのできた研究結果や経験を役立てることができるよう、残りの留学期間も精進してまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しく申し上げます。



行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 6月24日(日) : 富士吉田オープンキャンパス
- 7月2日(月) : 夏季スポーツ大会壮行会
- 7月22日(日) : 歯学部オープンキャンパス
- 7月29~30日 : 富士吉田オープンキャンパス
(日~月) 富士吉田入寮体験
- 7月30日~ : 第50回全日本歯科学生総合
8月10日(月~金) 体育大会夏期部門
- 8月1~2日 : 第13回昭和大学PBLチュートリアル
(水, 木) ルファシリテータ養成ワークショップ
- 8月6~8日 : 昭和大学教育者のための
(月~水) ワークショップ(ビギナーズコース)
- 8月9日, 10日 : 昭和大学教育者のための
(木, 金) ワークショップ(アドバンスコース)
- 8月11日(土祝) : 歯学部オープンキャンパス
- 8月18日(土) : 大学院歯学研究科秋季入試

学術研究奨励賞を受賞して

美容歯科学部門 菅井琳太郎

5月27日に上條講堂で行われました学祖祭にて、『CAD/CAM レジン修復物の接着性, 長期耐久性に優れた接着技法の確立』という研究課題で「学術研究奨励賞」を受賞させていただきました。今回このような栄誉ある賞を受賞させていただきましたのは、真鍋厚史教授並びに小林幹宏准教授の日々のご指導, ご鞭撻の賜物であり, 臨床もさることながら研究にも十分に望むことのできる恵まれた環境で過ごさせていただいていることを改めて実感いたしました。

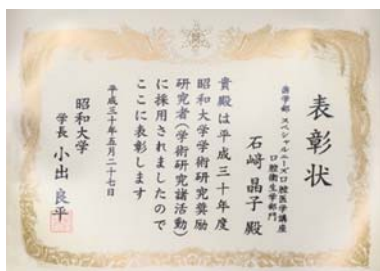


レジンブロックによる CAD/CAM 冠が保険導入され, 昨年適応範囲は大臼歯にまで拡大されました。今後, 従来のメタル修復に代わりレジンブロックを用いた審美修復は保険治療の中心となっていくと期待されます。しかし, レジンブロックの接着処理については多くの報告がありますが, 長期的に良好な接着耐久性をもたらす接着方法の確立はいまだされておりません。今回の研究が CAD/CAM レジンブロックを用いた臨床の成功に微力ながらも貢献できるように, 学術研究奨励賞に恥じぬよう今後とも尽力してまいります。

学術研究奨励賞を受賞して

口腔衛生学部門 石崎 晶子

この度は学術奨励賞を頂き, 誠にありがとうございます。受賞できましたことを大変嬉しく思います。私が所属します口腔衛生学部門は, 摂食嚥下の歴史ある教室であります。先々代の金子芳洋教授は, 我が国の摂食嚥下の第一人者として, 摂食嚥下リハビリテーション研究会(後に学会)を設立し, 記念すべき第1回研究会は, ここ昭和大学で開催されました。時代のニーズとともに摂食嚥下リハビリテーションの裾野は広がり, 重症心身障害児から始まった摂食嚥下リハビリテーションは, 様々な疾患へと適応され, その考え方は, 健康小児の発達支援にも応用されるようになりました。その結果, 今年度の診療報酬改訂では, 小児口腔機能管理加算が新設され, 食べる, 話すことに問題を抱える小児に対し, 益々の対応が求められるようになりました。しかし, 小児では, 口腔機能の客観的評価が難しく, 検査法が少ないといった問題が

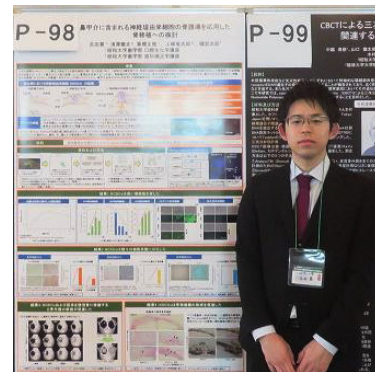


あります。今回このような賞を頂きましたので, 小児の咀嚼機能に関する客観的評価法を検討し, 発達障害をはじめとする, 発達に支援の必要な小児にも応用できるよう考えていきたいと思っております。少しでも子どもたちの健やかな成長に貢献できれば幸いです。この度は誠にありがとうございました。

第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会以優秀ポスター賞を受賞しました

歯科矯正学講座 吉田 寛

5月24日, 25日に大阪市中央公会堂で開催された, 第42回日本口蓋裂学会 総会・学術集会以「鼻甲介に含まれる神経堤由来細胞の骨誘導を応用した骨移植への検討」という演題で発表させて頂き,



優秀ポスター賞を受賞しました。本学術集会は, 歯学分野だけでなく, 医師や言語聴覚士, さらにコメディカルといった多職種が一堂に会し, 口唇裂・口蓋裂のより良い治療を進め, 多職種間の連携を深め, 社会福祉に貢献するという同じ目標に向かった学会です。本発表は大学院生時代からの研究であり, 指導して下さった槇宏太郎教授をはじめとする矯正学講座の先生方, 大学院生時代にご指導いただいた口腔生化学講座の先生方, 論文作成にご協力いただいた歯科理工学部門の柴田先生, 学位審査でご助言をいただいた先生方等, 多くの先生方のお力添えによって得られた結果と実感しております。発表では, 同じ分野の研究をなされている先生と討論する中で, いかに関心のある研究が多くの先生の実績をもとに, 多種多様な視点で構成されているか改めて実感しました。今後も歯学分野のみならず, チーム医療に貢献する多職種に対しても発信できるよう, より一層の精進を重ねたいと思っております。

認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

日本歯科放射線学会 専門医:

黒田 沙(歯科放射線医学部門)

編集後記

歯科理工学部門 堀田 康弘

6月18日に大阪府で震度6弱の地震が発生し, 死者5人, 負傷者405人, 家屋の一部損壊が515棟と発表されました。被災された皆様の安全と被災地の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。末筆ながら, ご多忙の折ご寄稿下さいました皆様方に感謝致します。